

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	敬老会等運営事業					担当部	健康福祉部			
	会計区分	一般会計		事業類型	一般	担当課	地域福祉課				
	事業期間	平成12年度以前		～	平成30年度以降		担当係	長寿福祉係			
	総合計画 分野別計画	主目的	2 保健・福祉		8 高齢者福祉		1 高齢者の社会参加と生きがいを支援します				
		副目的									
	予算区分	款	3	項	2	目	1	大	5	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市敬老金支給要綱、小牧市ひとり暮らし高齢者交流事業実施要綱									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	年に一度75歳以上の高齢者を市民会館に招待し、長寿祝品及び敬老金などを贈ることにより、老人に対して自らの生活の向上に努める意欲を促す。									
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会 老人福祉法第5条により「国民の間に広く老人の福祉についての関心と理解を深めるとともに、老人に対して自らの生活の向上に努める意欲を促すため」を主旨として老人の日が制定されているが、この主旨に沿って市主催により敬老会を開催する。 開催日 平成25年9月13日(金) 対象者 75歳以上の市民 市民会館に招待し余興を開催したり祝品及び敬老金を贈る。 参加記念品 茶葉 75歳祝品 箸セット 敬老金(こまきプレミアム商品券) 80歳5千円、85歳1万円、90歳1万5千円、95歳2万円、100歳3万円 余興 中国雑技 ・高齢者訪問 90歳以上の方に、市長及び民生委員等が訪問し、カタログギフト(6千5百円相当)を贈る。 対象者の名簿作成、民生委員への依頼、物品購入事務、未選択者へ催促を行う。 ・ひとり暮らし高齢者交流会 70歳以上のひとり暮らし高齢者が交流できる会を開催する。 開催日 平成25年10月10日(木) 11日(金) 対象者 70歳以上のひとり暮らしの市民 余興 みろく太鼓 <p>◆25年度直接経費の内訳 敬老金 14,650千円 ダイヤモンド婚記念品 474千円 バス借上 1,670千円 75歳祝品等 1,997千円 余興出演委託 500千円 高齢者訪問記念品 4,176千円 ひとり暮らし高齢者交流事業委託料 530千円 その他消耗品費等 524千円</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 敬老金 16,000千円 ダイヤモンド婚記念品 810千円 バス借上 2,000千円 75歳祝品等 2,234千円 余興出演委託 600千円 高齢者訪問記念品 5,900千円 ひとり暮らし高齢者交流事業委託料 850千円 その他消耗品費等 535千円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	23,678	23,836	24,521	28,929	
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,578	1,578	1,578	1,578
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	25,256	25,414	26,099	30,507	
	対前年比	%			100.6	102.6	116.8	
財源	一般財源	千円	25,256	25,414	26,099	30,507		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業 績	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
	対象者数 (敬老会)	人	目標		—	—	—	—
			実績		11,495	12,354	12,946	
	対象者数 (敬老会)	人	目標		—	—	—	—
			実績		1,553	1,608	1,758	
	対象者数 (高齢者訪問)	人	目標		—	—	—	—
			実績		958	993	1,952	
	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
	75歳祝品配布数 (敬老会)	人	目標		—	—	—	—
			実績		960	1,108	982	
支給人数 (敬老会)	人	目標		—	—	—	—	
		実績		1,531	1,585	1,718		

事業の自己評価	事業の達成状況	75歳以上の高齢者を市民会館に招待し、長寿祝品及び敬老金などを贈った。敬老会の対象者は、約600人増加したが、75歳祝品配布数は減少した。敬老金については、対象者の98.2%に配布ができた。また、高齢者訪問を行うことで、90歳以上の高齢者の安否確認を行い、対象者全員の安否確認を行うことができた。	
	事業実施における課題	敬老会等の実施については、高齢者のニーズの変化や今後の高齢化の進行を把握する中で、開催方法や規模・内容等の将来的な制度のあり方を検討する必要がある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	敬老会が縮小・廃止となると、高齢者に対する大規模な市の行事がなくなることで、老人の福祉に対するPRが不足する。また、近年、認知症等による高齢者の行方不明が社会問題となっており、高齢者の安否確認の手段が1つなくなる事になる。今年はおもらえと思っていた期待を裏切ることとなり、高齢者の楽しみや生きがいを奪うこととなる可能性がある。	
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	敬老会のバス利用者の利便向上のため、一部のバス停を変更した。
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持
	判定理由	当面は現行どおり実施するが、敬老会等について他市の状況を研究し、開催方法や規模・内容等の将来的な制度のあり方について検討を進める。	
	27年度以降の改善案	開催方法や規模・内容等の将来的な制度のあり方について他市の状況把握し、研究をする。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。